

ご使用方法 (2/2) (製品により外観等が異なりますが、操作は同じです。)

8. 時刻を合わせる

<1> 電源を切替えてください

〔電源切替スイッチ〕で電源を「充電電池 手回し」または「乾電池」に合わせてください。

<2> [リセットボタン] を先端の細いもので押してください

表示が全てついた後、時刻「午前12:00」となり、標準電波の受信を開始します。

注) 電源を切替えた後は、必ず[リセットボタン]を押してください。

<3> 時計を設置してください

本機を使用したい場所に置いてください。

(窓際などでできるだけ受信しやすい場所でのご使用をお勧めします。)

●受信中は、**Ⓜ**マーク (または **Ⓜ**マーク) が点滅し、受信マーク  が受信状態に応じて変化します。

●受信に要する時間は最長約20分間です。

【受信成功】

受信マーク  が表示され、[月/日] [曜日]


[時:分] [秒] が正しい日付と時刻に修正されます。

〔**Ⓜ**を表示：福島送信所からの電波を受信〕

〔**Ⓜ**を表示：九州送信所からの電波を受信〕

●受信成功後、正しく表示されているかをご確認ください。

【受信できない】

受信マーク  は表示されず、このとき時刻、日付の修正は行なわれていません。別項「**■電波を受信できなかった場合**」にしたがって場所を変えて再度受信させるか、手動操作で時刻、日付を合わせてください。

●使用場所の受信状態が良くない場合は、数分で受信を中断することができます。

<4> アラームを鳴らすには

(1) [進むボタン/戻るボタン] を押してアラーム時刻を合わせてください。


●[進むボタン/戻るボタン] を押すと、アラーム時刻が点滅し、アラーム時刻合わせの状態になります。

●アラーム時刻合わせの状態でも [進むボタン/戻るボタン] を押し続けている間は早送りします。

●約4秒間押されない状態が続くと、自動的にアラーム時刻が確定します。

(2) [アラームスイッチ] をONにしてください。

アラーム時刻になるとアラームが鳴ります。

●アラームマーク  が表示されます。

●アラームが鳴り始めると、バックライトが約5秒間点灯します。

<5> アラーム音を選択してください

〔アラーム切替スイッチ〕でアラーム音を選択してください。

※電子音は音量が固定です。

<6> アラームを止めるには

アラームを止めるには2通りの方法があります。

【アラームを完全に止める】

〔アラームスイッチ〕をOFFにして止めます。

●アラームマーク  が消えます。


【約5分後に再度アラームを鳴らす (スヌーズ機能)】

〔スヌーズ/ライトボタン〕を押すとアラームが止まり、約5分後に再び鳴り出します。

●スヌーズ中はアラームマーク  が点滅します。

●スヌーズ機能は何回でも繰り返すことができます。

アラームは約5分間で自動的に止まります。(オートストップ機能)

この場合、アラームマーク  は表示されたままとなり、翌日のアラーム時刻に再びアラームが鳴ります。

※アラーム中に [アラーム切替スイッチ] でアラーム音を切替えても、アラーム音は切り替わりません。

■自動受信について

午前2時から3時間ごとに、自動で電波受信を行います。受信に成功すると現在表示している時刻、日付を修正します。


■電波を受信できなかった場合

<1> 電波を手動で受信させ時刻、日付を合わせる

時刻表示の状態でも [受信ボタン] を押してください。標準電波の受信を開始します。

●受信状態については、前項「8. 時刻を合わせる」をご覧ください。

●うまく受信できない場合は本体の向きや場所をかえて、もう一度受信させてください。

●使用中に受信マーク  が表示されない場合は、使用場所の受信状態が良くないことが考えられます。

●詳しくは別紙「**電波クロックについて**」をご覧ください。

また、夜間は屋間にくらべて受信状態が良くなりますので、屋間に受信できなかった場合でも翌日までに自動で受信できる場合があります。

<2> 手動で時刻、日付を合わせる

電波を受信できない場合は、手動で時刻、日付を合わせてご使用ください。

(1) 時刻表示の状態でも [時刻/日付合わせボタン] を2秒以上押し続けてください。

(2) [時刻/日付合わせボタン] を押すごとに、下図のように順に表示が点滅します。

(3) [進むボタン/戻るボタン] で日付や時刻を合わせてください。

●[進むボタン/戻るボタン] を押し続けている間は早送りします。

●約4分以上 [進むボタン/戻るボタン] が押されなかった場合は、自動的に [通常表示] に切り替わります。

<表示部>



【年 合わせ表示】

[進むボタン/戻るボタン] で年を合わせてください。年は2000年~2099年まで合わせられます。曜日は自動的に合わせます。



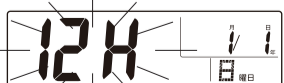
【月/日 合わせ表示】

[進むボタン/戻るボタン] で日付を合わせてください。曜日は自動的に合わせます。



【時刻 合わせ表示】

[進むボタン/戻るボタン] で時刻を合わせてください。[進むボタン/戻るボタン] を押した瞬間に、秒表示は0秒にリセットされます。




【12/24時間制選択表示】

[進むボタン/戻るボタン] で12時間制または24時間制を選んでください。

(4) 終了しましたら、[時刻/日付合わせボタン] を押して [通常表示] に切り替えてください。

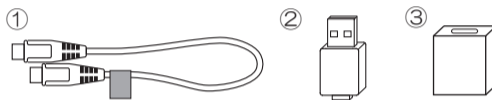
製品仕様

(改良のため予告なく変更する場合があります。)

受信周波数	: AM…531kHz~1710kHz (チューニングステップ9kHz) FM…76.0MHz~90MHz (チューニングステップ0.05MHz)
電源	: 単3アルカリ乾電池 (JIS規格LR06) 3個 (…別売り) 内蔵充電電池 (ニッケル水素電池) USB充電 ACアダプター (…別売り)
定格出力	: DC5V 400mA
定格入力	: DC5V (最大6V)
LEDライト	: 白色LEDライト 1個 (0.1W)
入出力端子	: イヤホン端子 (3.5mmミニジャック) USB micro B型入力/出力端子
時刻精度	: 平均月差±30秒 (気温5℃から35℃で使用した場合) 電波受信による時刻修正を行わない場合
表示精度	: ±1秒 (電波受信による時刻修正を行った直後)
使用温度範囲	: -10℃~+50℃ (液晶表示判読可能温度範囲0℃~+40℃)
アラーム	: 電子音/ラジオの切替、約5分間オートストップ、約5分間スヌーズ (スヌーズは何回でも繰り返し可) ※スヌーズ中はアラーム音の切替ができません。 電波受信による時刻修正を行わない場合
表示	: 日付/月/日/アラーム時刻、ラジオ周波数、曜日、午前/午後表示による12時間または24時間表示
電波受信機能	: 自動受信 (午前2時から3時間ごと。次の受信までクオーツの精度で動いています。) 手動受信
電池切れ予告	: 充電電池の残量が少なくなると  を点滅表示。
電池寿命	: 乾電池のみで単独使用した場合 ・ラジオ…約35時間 (音量目盛8の時) ・時計…約3年 ・LEDライト…約60時間 ・非常用ブザー…約9時間 内蔵充電電池のみで単独使用した場合 ・ラジオ…約12時間 (音量目盛8の時) ・時計…約1年 ・LEDライト…約20時間 ・非常用ブザー…約3時間

付属品

- 取扱説明書 (本書) 1枚 ●保証書 1枚
- 取扱説明書 <補足> 1枚
- ①充電用コード (USB Micro B型プラグ) 1本
- ②USBコネクター 1個
- ③USBコネクター 1個



その他の機能


■試し鳴らしについて

[モニターボタン] を押し続けている間、時刻に関係なく電子音のアラームが鳴ります。(但し、ラジオの使用中は除きます。)

■バックライトについて

[スヌーズボタン] を押すと表示部のバックライトが点灯し、ボタンを放してから約5秒間点灯します。

■充電電池の電池切れ予告表示について

電源を内蔵充電電池で使用している場合、充電電池の残量が少なくなると [内蔵充電電池残量表示] が  を点滅してお知らせします。点滅後は約8日間時計表示のみが動き、ラジオ、ライト、非常用ブザーは使えません。※充電電池の性質上、点滅を開始してからしばらくすると、消灯することがあります。

■自動受信を止めるには

この時計には自動受信を止める機能があります。

(誤受信の防止や設定時刻をすらすらしてお使いになりたい場合等にご使用ください。)

(1) 時刻表示の状態でも [受信ボタン] を、「OFF」が表示されるまで8秒以上押し続けてください。

(2) 前項「**■電波を受信できなかった場合 <2> 手動で時刻、日付を合わせる**」にしたがって時刻を合わせてください。

●この機能を設定した後も [受信ボタン] を押すと受信を行います。その後自動受信はしません。

●この機能を解除するには、[受信ボタン] を、「ON」が表示されるまで8秒以上押し続けてください。

■充電電池の廃棄について



NI-MH

本機を廃棄する際、内蔵充電電池のニッケル水素電池はリサイクルできます。不要になったニッケル水素電池は、金属部分に絶縁テープなどを貼って、リサイクル協力店へお持ちください。リサイクル及びリサイクル協力店については、一般社団法人JBRCホームページ www.jbrc.net/hp/contents/index.html をご参照ください。

【充電電池の外し方】

(1) 製品の裏面にある[裏ふた]を開けてください。(乾電池をご使用の場合は電池を抜いてください。)

(2) プラスドライバーで充電電池のふたのネジを外して、ふたを取ってください。

(3) 充電電池を取り出し、充電電池に接続されているリード線2本をハサミなどで切断してください。

(4) 各リード線がショートしない用に絶縁テープなどで止め、充電電池を絶縁テープなどで覆ってください。

※充電電池は完全に消耗した状態を確認してから取り外してください。

※ケガのないように十分注意してください。

■ご注意

●この製品にはマイコンが内蔵されています。静電気等により表示不良等誤作動することがありますが、故障ではありません。[リセットボタン] を押し続けてください。

●[リセットボタン] を押した場合は、設定された時刻等はすべてリセットされます。

●この製品は、日本標準電波仕様ですので、海外で電波修正機能は使用できません。

●乾電池でご使用の場合、乾電池交換後は必ず [リセットボタン] を押し続けてください。

故障かなと思ったときは

製品が正常に作動しないときは、修理を依頼する前に、この表を参考にお調べください。なお、新しい乾電池と交換される際は、乾電池の使用推奨期限をご確認のうえご使用ください。

症状	考えられる原因	処置
表示が出ない	・〔電源切替スイッチ〕が乾電池になっている ・充電電池の容量が少なくなっている	・〔電源切替スイッチ〕を 充電電池 手回し にして、充電電池を充電してください。乾電池で使用している場合は、指定の新しい乾電池に交換してください
時刻またはカレンダーの表示が欠けている・合っていない	・充電電池(乾電池)の容量が少なくなっている ・きちんとリセットされていない	・充電電池を充電してください。乾電池で使用している場合は、指定の新しい乾電池に交換してください ・確実に [リセットボタン] を押し続けてください
ラジオが鳴らない ライトが点灯しない 非常用ブザーが鳴らない	・充電電池(乾電池)の容量が少なくなっている ・きちんとリセットされていない	・充電電池を充電してください。乾電池で使用している場合は、指定の新しい乾電池に交換してください ・確実に [リセットボタン] を押し続けてください
アラームの音が鳴らない	・〔アラームスイッチ〕がOFFになっている	・〔アラームスイッチ〕を ON にしてください
携帯電話・スマートフォンが充電できない	・携帯電話(スマートフォン)の仕様による ・携帯電話(スマートフォン)が放電しきっている	・〔充電電池残量ボタン〕を約5秒以上押すまたはコードを逆にして充電してください ・完全に放電しきった携帯電話(スマートフォン)へは充電が出来ない場合があります

多機能防災クロック

取扱説明書

お買い上げありがとうございます。ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みの上、正しくご愛用くださいますようお願い申し上げます。なお、この取扱説明書はお手元に保存し、必要に応じてご覧ください。

本製品、ならびにアフターサービスなどにつきまして不明な点がございましたら、製品本体の裏面または底面に表示してあります製品番号(品番)をご確認のうえ、セイコークロック(株) お客様相談室にお問い合わせください。

(例: SQ000、NR000、KRO00など)

お客様相談室 0120-315-474

www.seiko-clock.co.jp

発売元

セイコークロック株式会社

説明書番号 FSQ-123Q-1

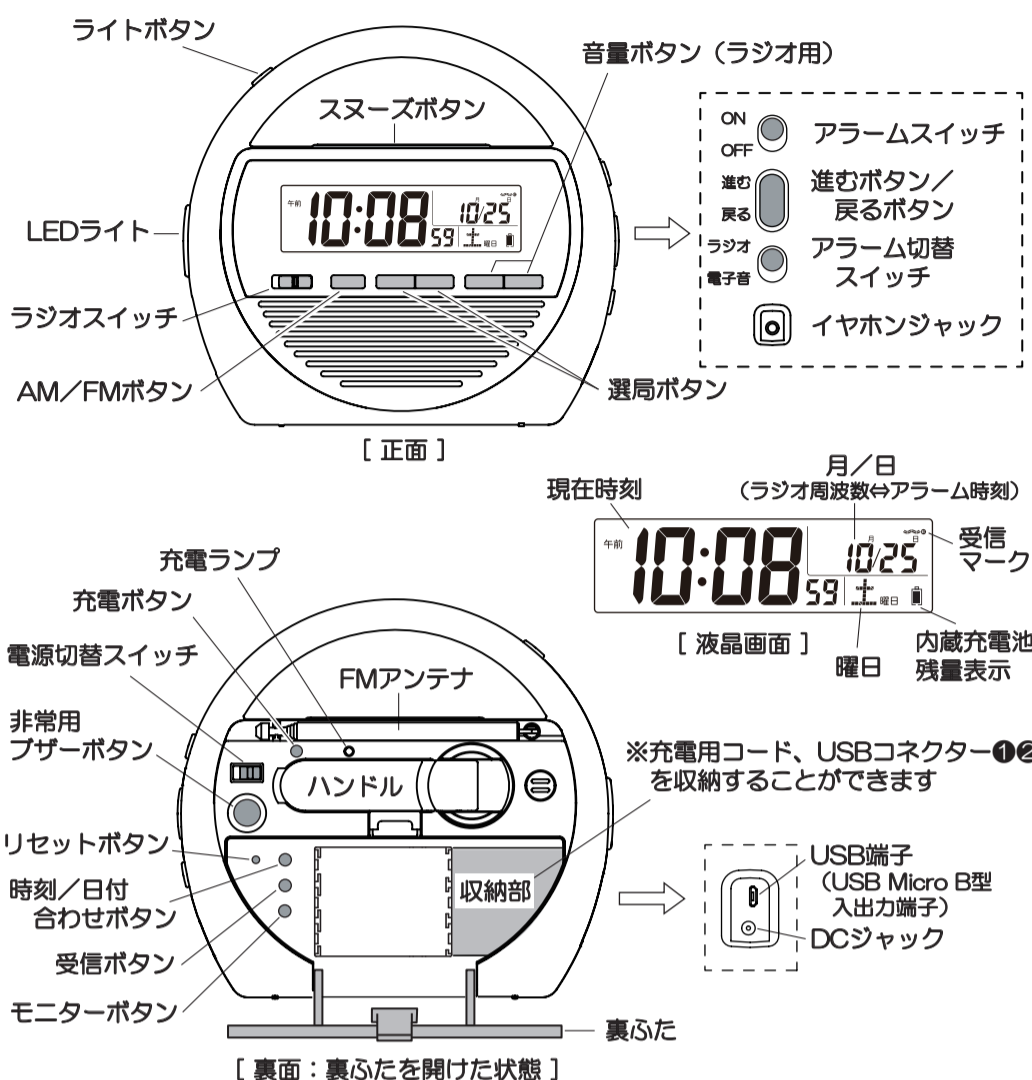
この取扱説明書の内容は、予告なしに変わることがあります。印刷による制限のため、この取扱説明書中の図が実際の表示と異なる場合があります。この時計によって生じたいかなる支出、損益、その他の損失に対してなら責任を負いません。この取扱説明書を製造者の許可なくして変更・複製することを禁じます。

ご使用方法 (1/2) (製品により外觀等が異なりますが、操作は同じです。)

1. はじめに

本製品の安全上のご注意ならびにその他の注意事項をお読みの上、ご使用ください。
製品によって、液晶画面に透明シールが貼ってあります。シールをゆっくりはがしてください。
(このとき静電気により黒い線、しみなどが発生することがありますが、しばらく放置しますと元に戻ります。)

2. 各部の名称



3. 電源について

本製品の電源は、内蔵充電電池、乾電池 (別売り)、ACアダプター (別売り) の3つから選べます。内蔵充電電池への充電は、USBで接続、ハンドルを回す、ACアダプター (別売り) を使用の3つの方法があります。尚、初めてご使用になる場合は、必ず内蔵充電電池へ充電を行ってください。

●各機能の持続時間の目安 (持続時間は各機能を単独で使用した場合の目安です。)

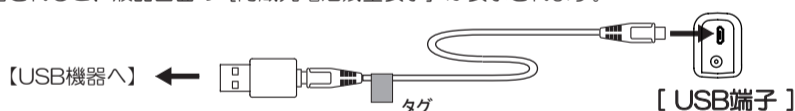
機能	内蔵充電電池	ハンドル	乾電池
時計のみ	約1年	約8日	約3年
ラジオ (音量8)	約12時間	約15分	約35時間
LEDライト	約20時間	約25分	約60時間
非常用ブザー	約3時間	約5分	約9時間
携帯電話/スマートフォン	約20~30%を充電	通話: 約2分 待ち受け: 約30分	

【条件】
内蔵充電電池...フル充電の状態
ハンドル...1秒間に2回転のペースで約2分間回した状態
乾電池...新品の単3アルカリ乾電池3個を使用

※携帯電話/スマートフォンは2012年現在です。

■内蔵充電電池をUSBで充電する

- 付属の「充電用コード」と「USBコネクター①」を下図の通りに接続してください。(※必ずタグ側を「USBコネクター①」に接続してください。)
お使いのUSB端子のついた機器に接続してください。自動的に充電が開始されます。
・充電が開始されると、液晶画面の「内蔵充電電池残量表示」が表示されます。



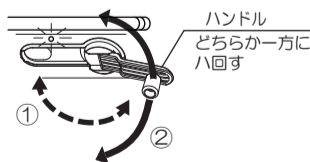
- [内蔵充電電池残量表示]がフル充電状態で停止すると、充電完了です。
- 充電終了後は「充電用コード」をはずしてください。[内蔵充電電池残量表示]が消えます。
※USB経由で充電時間は約4時間です。(ラジオ、ライト、ブザーを使用しない場合)
※ご使用の機器によってはUSBから充電できない場合があります。



●充電中はラジオ、非常用ブザー、ライト、時計をご使用いただけません。

■ハンドルを回して内蔵充電電池を充電する

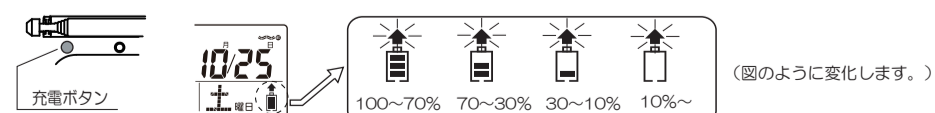
- [アンテナ]を収納状態にして、ハンドルを引き起こしてください。
- ハンドルを回すと内蔵充電電池に充電されます。
・片方の手で本体をしっかりと握り、もう片方の手でハンドルのつまみ部分を握ってハンドルを回してください。
・回し始めはゆっくりと、そのあと1秒間に2回転のペースでハンドルを回転させてください。
●発電中は「充電ランプ」が点灯します。
●ハンドルに負荷がかからないように、ハンドルは一方方向に回してください。無理な力をかけると破損する場合がありますのでご注意ください。



※ハンドルを早く回すと内蔵充電電池の性能が低下する場合があります。
●ハンドルを止めると液晶画面に数秒間、残量が表示されます。

■充電電池の電池残量を確認する

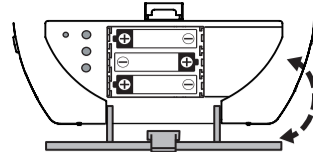
[充電ボタン]を押してください。
・約2秒後、液晶画面に「内蔵充電電池残量表示」が約12秒間表示されます。



※内蔵充電電池は性質上、長期間ご使用にならないと寿命が短くなったり、使用できなくなることがあります。半年に1回、必ず充電してお使いください。また、充電と放電 (ラジオを使用するなどによる消費) を繰り返していくうちに性能が低下します。尚、本製品の充電の使用限度は約500回までです。

■乾電池 (別売り) を使う

- 製品の裏面にある「裏ふた」を開けてください。
- 別売りの単3アルカリ乾電池3個を+-の向きに注意し、正しく入れてください。
※+-を間違えないでください。
- 「裏ふた」を閉めてください。
※乾電池でご使用の場合は、電池切れ予告表示がありません。
※乾電池から携帯電話/スマートフォンへの充電は出来ません。



■ACアダプター (別売り) を使う

ACアダプターを「DCジャック」にしっかりと差し込んでください。
●ACアダプターは専用のアダプター (品番: ZZ262A) をご使用ください。
※乾電池とACアダプターが併用されている場合、ACアダプターが優先されます。
※内蔵充電電池を充電することができます。(充電時間は、約5時間です。)

■電源を選択する

[電源切替スイッチ]で電源を選択してください。



※ACアダプターまたはUSBで接続してご使用の場合は、「電源切替スイッチ」がどちらでもお使いになれます。

4. LEDライトを使用する

- [電源切替スイッチ]で電源を「充電電池手回し」または「乾電池」に合わせてください。
- [ライトボタン]を押すとLEDライトが点灯します。

5. 非常用ブザーを使用する

- [電源切替スイッチ]で電源を「充電電池手回し」または「乾電池」に合わせてください。
- [非常用ブザーボタン]を押すとブザーが鳴ります。もう一度押すとブザーが止まります。
※非常用ブザーの音量は調節できません。

注意 LEDライトを直視したり、目に向けて照らさないでください。目を傷める恐れがあり、危険です。
ブザーは非常に大きな音が鳴ります。
・耳の近くで使用しないでください。
・非常時以外の時に使用すると近隣の方へご迷惑になります。ご注意ください。

6. ラジオ (モノラル) を聴く

- [電源切替スイッチ]で電源を「充電電池手回し」または「乾電池」に合わせてください。
- [ラジオスイッチ]をONにしてください。
・液晶画面にバンド、周波数が表示されます。
※初めてお使いの場合、FM76.00MHzにセットされています。
- [AM/FMボタン]でAM、FMを選択してください。
- [選局ボタン]の+、-を押して聞きたい放送局を選択してください。
・ボタンを1回押すごとにAMは9kHzずつ、FMは0.05MHzずつ周波数が変わります。
●1秒以上押し続けると早送りになり、受信状態の良い放送局に合わせます。(自動選局機能)
・早送りの途中でもう一度押すと、早送りを停止します。
※電波の受信状況が悪く受信できない場所では自動選局は自動的に停止しません。
その場合 [選局ボタン] を押して停止し、電波状況の良い場所へ移動してください。
- [音量ボタン]の+、-を押して音量を調節してください。
※ラジオを使用中に [非常用ブザーボタン]、[充電ボタン] を押すと一時的にラジオは中断します。



■良い受信状態で聴くには

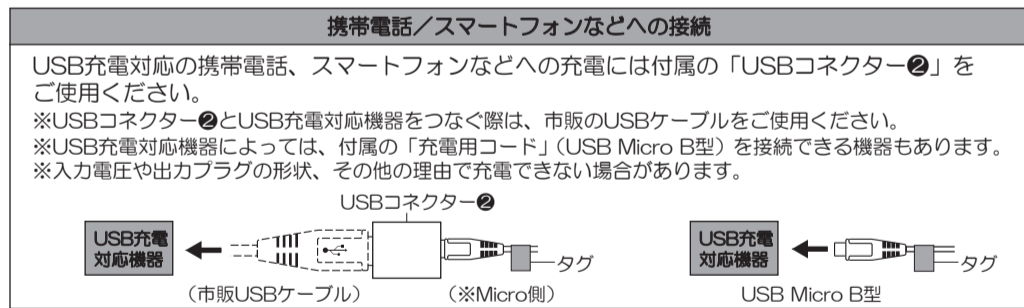
- AM放送の場合
本体を最も良く受信できる方向に向けてください。
 - FM放送の場合
「FMアンテナ」を伸ばし、アンテナを最も良く受信できる方向に向けてください。
- 注意** アンテナの向きを合わせる際、アンテナの根元で指を挟まないようにご注意ください。アンテナを動かすとき、先端部分を強く動かすと破損する場合がありますので、注意してください。

■イヤホン (別売り) で聴くには

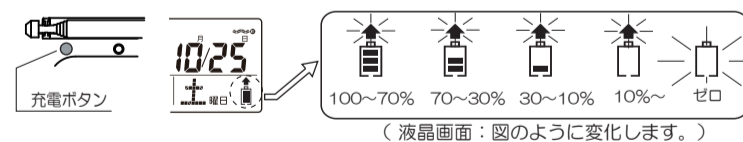
市販のステレオイヤホン (3.5mmミニプラグ) を「イヤホンジャック」に接続することでラジオを聴くことができます。(ラジオの出力はモノラルです。)
※モノラルイヤホンもご使用いただけますが、音量が小さくなります。

7. 携帯電話/スマートフォンなどへ充電する。

- 付属の「充電用コード」のタグがない側を本体の[USB端子]に接続してください。 [本体: USB端子]
- 携帯電話/スマートフォンなどを下図の通りに接続し、[充電ボタン]を押してください。



・約2秒後、液晶画面に「内蔵充電電池残量表示」を表示し、充電を開始します。



※[内蔵充電電池残量表示]が消灯 (約12秒) して充電しない場合は、それぞれ以下の操作を実施して再充電を行ってください。

- ・「[内蔵充電電池残量表示]が表示されるまで充電ボタンを押し続けてください (約5秒)」
 - ・「コードの接続を逆に (タグ側を本体に接続) して充電を開始させてください」
- 内蔵充電電池の残量がゼロの表示になると終了です。
 - 充電が終了しましたら「充電用コード」をはずしてください。
・内蔵充電電池がフル充電でも、スマートフォンに100%充電することはできません。(機種により充電量は異なります。)

＜携帯電話/スマートフォンへの充電についてのご注意＞

※本製品は携帯電話/スマートフォンの一部機種に対応できない場合があります。
※本製品はハンドルを回して直接の充電はできません。携帯電話/スマートフォンへの充電は、内蔵充電電池から行います。
※充電用コードはケーブル部分をつかんで、差したり抜いたりしないでください。
※携帯電話/スマートフォンの電池が完全に放電しきった状態では充電が出来ない場合があります。
※携帯電話/スマートフォンの電池残量が半分以上残っている場合、充電できない場合があります。これらの電池残量が半以下になってから充電してください。
※携帯電話/スマートフォンの充電電池の状態によっては充電できない場合があります。
※携帯電話/スマートフォンの充電状態は、携帯電話/スマートフォン側で確認してください。
※詳細は、弊社ホームページをご参照ください。
※万一、本機の使用により生じた携帯電話/スマートフォンのデータの消失、機能障害、および逸失利益または第三者からのいかなる請求に対しても、当社では一切責任を負いかねますので、ご了承ください。

多機能防災クロック

取扱説明書〈補足〉

- 安全上のご注意
- 電波クロックについて
- 使用場所・お手入れ
- 保証・アフターサービスについて

この取扱説明書の内容は、予告なしに変わることがあります。印刷による制限のため、この取扱説明書中の図が、実際の表示と異なる場合があります。この時計によって生じたいかなる支出、損益、その他の損失に対してなら責任を負いません。この取扱説明書を製造者の許可なくして変更・複製することを禁じます。

このたびは、お買い上げいただき、ありがとうございました。ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みの上、正しくご愛用願います。なお、この説明書はお手元に保存し、必要に応じてご覧ください。

本製品、ならびにアフターサービスなどご不明なことがございましたら、製品本体の裏面または底面に表示してあります製品番号(品番)をご確認の上、お買い上げ店または、セイコークロック(株)お客様相談室にお問い合わせください。(例:SQ000、NRO00、KRO00など)

お客様相談室 0120-315-474

www.seiko-clock.co.jp

発売元

セイコークロック株式会社

電波クロックについて

■電波時計/電波修正時計とは

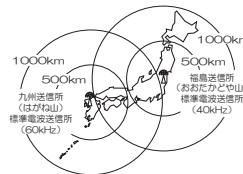
正確な時刻およびカレンダー情報をのせた標準電波を受信することにより、現在時刻を表示する時計です。

■標準電波とは

情報通信研究機構(NICT)が運用している時刻情報をのせた電波で、国内2ヵ所の標準電波送信所からそれぞれ異なる周波数で送信されています。標準電波の時刻情報はおよそ10万年に1秒の誤差という超高精度を保つ『原子時計』によるものです。

■電波受信について

標準電波が受信可能な地域は条件によって異なりますが、送信所(東・西2ヶ所)からおおむね1000km~1200kmです。この製品は40kHz(東・福島送信所)、60kHz(西・九州送信所)のいずれか受信しやすい電波を自動的に選択し受信します。ただし、天候、置き場所、時計の向き、時間帯あるいは地形や建物の影響などによって受信できない場合があります。



■ご注意

- ご使用直後の電波受信をできなかった場合でも、夜間は昼間にくらべて受信状態が良くなりますので、翌日までに受信できる場合があります。一昼夜の様子を見た後、受信結果をご確認ください。
- 電波障害等により、誤った受信をした際に、誤った時刻を表示する場合があります。また使用場所・電波状況によっては受信できないことがあります。このような時は、場所を変えてお使いください。
- 電波を受信できない場合は、内蔵クォーツの精度で計時します。
- 標準電波は、毎時15分と45分からの各1分間はコールサインの送信を行うため一部時刻情報の送信を中断します。また設備のメンテナンスや落雷などの影響により停波することがあります。停波に関する情報は、弊社ホームページをご覧ください。お客様相談室にお問い合わせください。(ホームページアドレス www.seiko-clock.co.jp)

保証・アフターサービス

- この時計はメーカー保証です。保証の内容については別添の保証書をご覧ください。尚、保証書は日本国内のみ有効です。また、アフターサービスも海外ではできません。
- 保証期間中の保証規定に基づいた修理品は、お買い上げ店がお預かりしメーカーが無料で修理いたします。必ず販売店名捺印の保証書を添えてご依頼ください。
- 保証期間中でも無料修理の対象とならない修理品および保証期間経過後の修理品は、ご希望により有料で修理させていただきます。
- この時計の修理用部品は、3年間保有しています。この期間は原則として修理が可能です。修理用部品とは製品の機能を維持するために不可欠な時計本体の部品です。修理の可能な期間は、ご使用条件により異なります。また修理可能な場合でも元通りの精度にならない場合があります。お買い上げ店にご相談ください。
- 修理のとき、部品・その他の付属品は、一部代替部品を使用させていただくこともありますので、ご了承ください。
- 保証期間外、もしくは無料修理の対象とならない修理の際は、本体の修理料金のほか、取扱店と修理工場との間の往復運賃、諸掛り費用をお客様にご負担いただきます。代金が標準小売価格を上回る場合があります。
- 保証期間中・経過後とも、修理品はお客様がお買い上げ店にお持込みいただけます。修理を依頼されるときはお買い上げ店にご持参ください。
- お客様が分解しますと、修理不可能になる場合やけがの恐れがあり大変危険です。また保証の対象外となりますのでご注意ください。
- ご不明の点はお客様相談室にお問い合わせください。

必ずお守りください。安全上のご注意 ▶

⚠ 警告

<アルカリ電池について>

- (1) ショート、分解、加熱、火に入れるなどしないでください。アルカリ性溶液がもれて眼に入ったり、発熱、破裂の原因となります。
- (2) 万一、アルカリ性溶液が皮膚や衣類に付着した場合にはきれいな水で洗い流し、眼に入ったときは、きれいな水で洗った後、直ちに医師の治療を受けてください。

<梱包用ポリ袋について>

ポリ袋は絶対にかぶらないでください。

<アンテナについて>

雷が鳴りだしたら、アンテナをたたんでください。感電の原因となります。

⚠ 注意

<乾電池について>

下記のことを必ず守ってください。電池の使い方を間違えますと液もれや破裂のおそれがあり、機器の故障やけがなどの原因となります。

- (1) ⊕ ⊖ を正しく入れてください。
- (2) 製品仕様の電池寿命を経過した場合は、時計がまだ動いていてもすべて指定の新電池と交換してください。また、時計を使わないときは電池をすべてはずしてください。電池の一部の交換や、電池を入れたままにしておくと、他の部分の止まりや古い電池からの液漏れ等で時計や、周囲の物を汚したり、傷めたりする恐れがあります。
- (3) 充電式でない乾電池を充電すると液もれ、破損のおそれがあります。
- (4) 電池に直接ハンダ付けしたり、水滴をつけないでください。
- (5) 直射日光・高温・高湿の場所を避けて保管してください。また使用済みの電池は、速やかに処分または幼児の手の届かないところに保管してください。
- (6) 時計が動かない等の場合、電池端子が汚れている場合があります。やわらかい布などでクリーニングしてください。

<時計の設置場所について>

落下や転倒により、けがおよび器物を破損する恐れがありますので、振動のある所や、不安定な場所には時計を設置しないでください。

<液晶パネルについて>

液晶パネルが破損した場合、ガラスおよび中の液晶には十分に注意してください。

- 万一以下の状態になったときは、それぞれの応急処置を行ってください。
- (1) 皮膚に付着した場合は、付着物をふき取り、水で流し、石けんでよく洗浄してください。
 - (2) 目に入った場合は、きれいな水でよく洗い流し、最低15分間洗浄した後、直ちに医師の診断を受けてください。
 - (3) 飲み込んだ場合は、きれいな水でよく口の中を洗浄してください。大量の水を飲んで吐き出した後、直ちに医師の診断を受けてください。

必ずお読みになってからご使用ください。▶

使用場所について

下記のような場所では使わないでください。
機械や電池の品質が確保されなくなり、精度不良や電池切れを起こすことがあります。また、本商品は業務用ではありません。

- 温度が+50℃（50度）以上になる所や直射日光のあたる所。
例えば、屋外、暖房器具などの熱風や火気に近い所。
 - 温度が-10℃（氷点下10度）以下になる所。
プラスチック部品や電池の劣化が起きることがあります。
 - 塵、埃の多い所。
空気中に舞上がったごみが歯車や接点に挟まって時計が止まったり、音が鳴らなくなることがあります。
 - 大型テレビ・スピーカーのそばや、強い磁気のある所。
磁力の影響で進み、遅れを生じたり、時計が止まるがあります。
 - 浴室など湿気の多い所。また、水がかかる所や加湿器の蒸気が直接あたるような所。
 - 振動のある所。不安定な所。
 - 工場、台所など多くの油を使用する所。
霧状になった油分が機械の歯車等に付着し、時計が止まるがあります。
 - ビニール系素材の壁や敷物等の上。
壁や敷物および時計が汚れたり、傷んだりすることがあります。
 - 木枠の時計の場合には、空気が非常に乾燥した状態や湿気の多い状態が続くと、枠が傷むことがあります。また、40度以上の高温になりますと、接合部のフクレやハガシが起きる場合があります。
- 本製品をご使用の際はできるだけ、電波を受けやすい窓際などにおいてください。次のような環境条件では正確に受信できないことがあります。**
- ビルの中、ビルの谷間、地下。
 - 高圧線、テレビ塔、電車の架線の近く。
 - 冷蔵庫、エアコン、空気清浄機、パソコン、ファクシミリ等の家電製品やOA機器の近く。
 - 工事現場、空港や軍事基地の近く、交通量の多い所など、電波障害の起きる所。
 - 乗り物の中（自動車、電車、飛行機など）
 - その他電波ノイズを発生させるもの近く。
 - スチール机等の金属製の家具の上や近く。



お手入れについて

長くご愛用いただくために、2・3年に一度の点検・調整(有料)をおすすめいたします。販売店にご相談ください。

- ベンジン、シンナー、アルコール、ミガキ粉、各種ブラシなどは使わないでください。
殺虫剤、ヘアスプレーなどもかからないようにしてください。変色、傷の恐れがあります。

プラスチック枠の時計の場合

- 枠をふくときは、湿った、やわらかい布でふいてください。
- よごれがひどいときは、水でうすめた中性洗剤を少量、やわらかい布につけてふき、ふいた後で乾かしてください。

木枠・金属枠の時計の場合

- よごれやほこりをとるときは、やわらかい布で乾かしてください。

※お客様が分解しますと、修理不可能な場合やけがの恐れがあり、大変危険です。また保証の対象外となりますのでご注意ください。

<液晶パネルについて>

- 見る方向によって表示が薄くなったり、ムラになったりすることがあります。
- 温度が低くなると液晶表示の反応が遅くなる場合があります。
- 温度が高くなると液晶パネル面が黒くなり、判読できなくなることがあります。
- つぎの場合、静電気や圧力を加えることにより、黒い線・しみ・縞模様が発生することがありますが故障ではありません。しばらく放置しますと元に戻ります。
 - ・表示部の透明シールをはがしたり、乾いた布などで拭いたとき
 - ・指などで液晶パネルを押しすぎたとき